

西郷村における耕畜連携の取組み

県南農林事務所農業振興普及部

1. 背景・ねらい

- 西郷村では、平成19年から耕畜連携活動が開始され、WCS用稲の栽培が始まった。平成27年に「西郷村耕畜連携推進協議会」（以下「協議会」という。）を設立し、耕種農家と畜産農家の利用調整等による耕畜連携事業に取り組んでいる。
- 協議会全体の生産面積が拡大し、定着していく中で、
 - ①耕種農家の栽培技術、収量、品質のばらつきの解消
 - ②大規模耕種農家への作業集中の解消
 - ③協議会事務局運営の支援が課題となっていた。

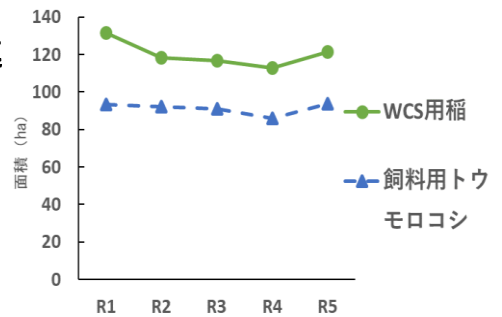


図1. 西郷村内での作目別栽培面積の推移 (ha)

西郷村の耕畜連携活動が持続的な取組となることを目指し、生産者や収穫作業を受託するコントラクター、協議会事務局へ支援を行う必要があった。

2. 活動内容

(1) 耕種農家へ向けた稲WCS収量高位平準化のための栽培指導

- ①WCS用稲の栽培支援
 - ・WCS用稲の栽培管理に関する技術情報の発行
 - ・巡回指導
 - ・品質保持のための適期刈取による収穫時期の調整
- ②耐病有望性品種の導入実証
 - ・WCS用稲品種「つきすずか」導入の提案
 - ・実証ほの設置



図2. 「つきすずか」の実証ほ

(2) 大規模耕種農家へ向けた労働ピーク解消のための支援

- ①WCS用稲の乾田直播栽培の導入推進
 - ・ほ場準備～湛水管理までの作業や除草、入水時期等の指導
 - ・巡回指導
 - ・生育調査
- ②技術波及のための情報共有
 - ・現地見学会



図3. 乾田直播栽培の播種作業

(3) 耕畜連携全体の調整役を担う協議会事務局への助言及び支援

※協議会事務局…生産計画の管理や作業受委託、堆肥の供給先の調整、販売先の確保等を担当

- ①安定生産のための栽培管理票確認等作業や品種構成の提案
 - ・事務局担当者との生産計画の管理に関する打合せの実施（年4回）

3. 活動の成果

(1) 稲WCS収量の高位平準化

①巡回指導や技術資料配布による指導の結果、堆肥投入等の適切な肥培管理により、収量は増加傾向となり、高位平準化が進んだ。

→しかし晩生品種への偏りにより、適期刈取の難しさが課題として残った。

②つきすずかは、収量性や熟期が慣行のタチアオバと同等かつ葉いもち等の病害の発生がみられなかったため、病害への抵抗性を確認できた。

→しかし草丈が非常に長く既存の収穫機械では負荷がかかり、作業能率の低下が認められた。

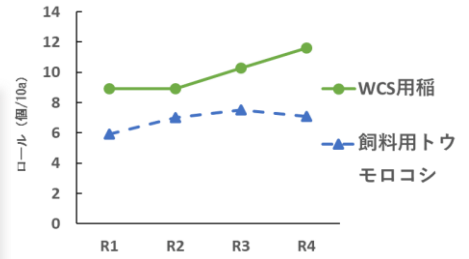


図4. 稲WCS等の単位収量 (ロール(個/10a))



図5. 坪刈りした稲株 (左:つきすずか 右:タチアオバ)

(2) 大規模耕種農家におけるWCS用稲 乾田直播栽培の定着

○今年度、2年目となる作付を行った。坪刈収量は湛水直播と同等となった。従来体系(湛水直播のみ)の播種作業開始前に播種を行うことができ、労働ピーク解消の有効性を示せた。

→しかし春の労働ピーク解消の一方で、コントラクターの収穫作業の労働ピーク解消が課題として残った。

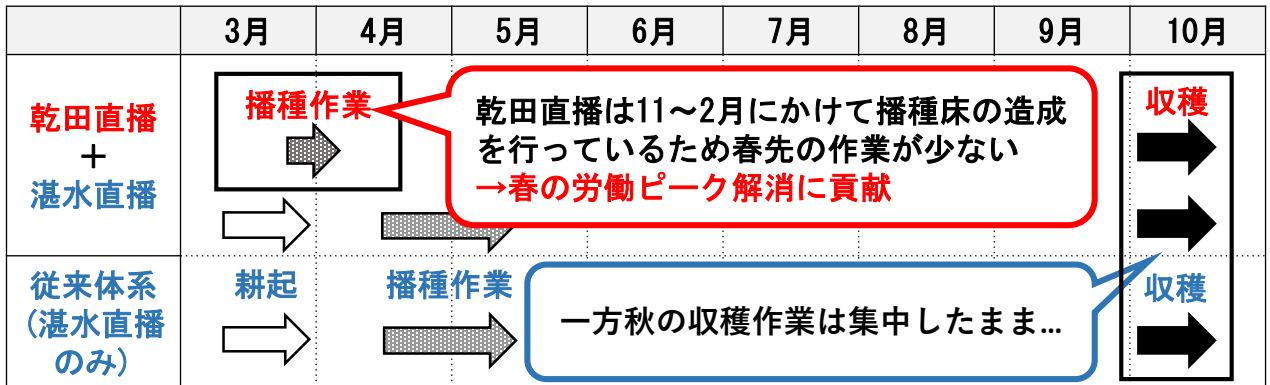


図6. 乾田直播及び湛水直播栽培体系

(3) 協議会事務局の活動の円滑化

○担当者との打合せを重ねることで、栽培管理票の確認や品種構成の重要性について理解が進み、晩生品種への偏りの解消に向けて、今後検討を行うこととなった。

4. 今後の活動・方向性

- (1) コントラクターの収穫作業分散に向けた栽培品種等の検討
- (2) 乾田直播栽培の取組継続、波及による省力・安定生産の推進
- (3) 協議会事務局運営の支援による堆肥の利活用と自給粗飼料生産推進



耕種農家と畜産農家がWinWinの関係となる
耕畜連携の継続・発展を目指す！